

緑化交流を通じて「蘭州秋田会」が発足

NPO法人あきた白神の森倶楽部 理事長 大 高 一 成

蘭州市南北両山環境緑化工程指揮部をカウンターパートに、平成22年度から取り組んできた蘭州市南北両山水土保全林造成事業は本年度で5年間の事業を完了し現在最終年度の事業に取り組んでいるところです。

蘭州市は黄土高原に位置し、恒常的な旱魃地域であり砂嵐等の自然災害多発地域であるため、市政府は生態環境改善に向けて全力で取り組んできました。特に助成事業の実施地域は急傾斜荒廃地での植林事業ですが、生存率95%の好成績で推移し、その技術力は地域において他の規範と位置づけられモデル事業として国家林業局の高い評価を得ており、飛砂防止はもとより将来的には水源涵養・土砂崩壊防止等の水土保持機能をはじめ空気浄化等生態環境改善に大きな効果が期待されています。

また、助成事業による20haの植林事業には≒6,000人の地元農民が稼働し現金収入を得ており、植栽樹種の刺槐、山杏は将来的には養蜂、果樹等の農産物生産に発展する経済効果が大きく期待されています。



記念植樹(七里河区緑化指揮部張総指揮と)

このように助成事業の実施は、生態環境の改善を促進し、市生態改善重点地区に指定されている南北両山の森林面積が拡大され、市全体の植林事業に大きな助力となっており環境改善の兆しが表れてきています。

こうした助成事業の効果を踏まえ、植栽地の現況を写真により記録することにし、友誼団体である秋田県林業育成協会が、平成16年度から6年間実施した植栽地も加えての調査を実施しました。

秋田県と甘肅省は友好交流姉妹都市として30余年になりますが、甘[文書の重要な部分を引用して読者の注意を引いたり、このスペースを使って注目ポイントを強調したりしましょう。このテキストボックスは、ドラッグしてページ上の好きな場所に配置できます。]肅省から秋田県に派遣された国際交流員や各分野の研修員(医学、考古学、教育、観光等)



蘭州秋田会

が中心に、秋田在勤時における当倶楽部並びに秋田県林業育成協会との交流が発端となり、今後の友好交流をより一層深めることを目的に、2014年5月「蘭州秋田会」が結成されました。これは助成事業の取り組みを始めた2004年以来[文書の重要な部分を引用して読者の注意を引いたり、このスペースを使って注目ポイントを強調したりしましょう。このテキストボックスは、ドラッグしてページ上の好きな場所に配置できます。]

、秋田県林業育成協会並びにあきた白神の森倶楽部との交流が発端となったもので、助成事業に関わる甘肅省の

関係者は「秋田の友人が我が省の生態環境改善事業に配慮と支持のもとで実施される助成事業は日中友好のシンボル」と熱烈に意識しており、助成事業の発展的取り組みにより、今後の秋田・甘肅との友好交流がさらに強化発展するものと

期待されています。

当倶楽部は助成事業の円滑な実行を図るため、毎年現地調査団を派遣して、事業の実施状況の確認と次年度予定地を視察し事業実行面・技術面等について意思疎通を図るとともに、中国側関係者との記念植樹、レセプション等により友好交流を深めてきました。

特に今回は「緑化協力における苗の植え方——ポリ袋のままでの植栽実験」緑のネットワーク〈基金だよりNo13 p30〉を活用させて頂きました。中文に翻訳したものを持参し説明しましたが、幸い袋のままの植え方はしておらず、大変分かり易いと理解を深めることが出来ました。紙面をお借りして感謝致します。